

令和3年度主催事業「50周年特別事業 若年教員対象 体験活動指導者研修」事業報告

○開催日:10月22日(金) ○参加者数:19名 ○開催場所:英彦山青年の家



事業の目的

小学校・中学校の若年教員が、主体的・対話的で深い学びとなる自然体験活動の指導や学級・集団づくりに役立つレクリエーションの指導に関する基本的な知識・技能を習得することを目的としました。



講話「体験活動と教育課程の関連性」

体験活動の意義、学習指導要領における体験活動の取り扱い、体験活動と深い学び等について講話を行いました。体験活動を実施する際は、育成する資質・能力を明確にし、各教科等の特質に応じた体験活動を、教科横断的な視点をもって教育課程に位置づけることの大切さについて理解を図りました。



体験活動についての講話を聴いています。



交流を図り、理解を深めています。



演習「自然の中での集団宿泊活動における指導の在り方」

体験活動を主体的・対話的で深い学びにするための手立てや工夫について学ぶ演習(野外炊飯)を行いました。野外炊飯をするにあたって数点の条件を提示し、その範囲内で自由な行動を促すことで、受講生の主体的かつ協働的に活動する様子がたくさん見られました。



火をおこすための材料を山で集めています。



火を大きくする方法を考えています。



演習「集団づくりに役立つレクリエーション」

よさや違いを認め合える集団の構築に役立つレクリエーション演習を行いました。前半の演習では、1つ1つのレクリエーションにある教育的価値を理解し、実施することの大切さを伝えました。後半は、受講生がオリジナルのレクリエーションをつくる時間とし、レクリエーションは少しの工夫で楽しく応用できることを体験してもらいました。



フラフープを全員の人差し指から離さずに持ち上げるレクリエーションです。



グループでオリジナルのレクリエーションを作っています。



参加者の声

- 体験活動は日常から切り離れた特別なものという認識が強くあったが、学びに向かう力等を育む学びの根源であると理解できた。
- 子どもの実態に即した目標や条件等を設定・提示することで、子ども達の活動に対する意欲がとても大きくなり、仲間との交流もたくさん生まれることを実感できた。
- レクリエーションは子ども達がお互いの関係を深めながらコミュニケーション能力を育成できる大切なものであると理解できた。明日から学級で実践してみたい。



全体を通して

近年増え続けている若年教員の力になりたいと考え、当研修を実施しました。

研修を通して最も多く聞かれたのが「体験活動は楽しい。」という声です。先生方に何より感じて欲しかったことでした。体験活動の楽しさを感じさせるための手立てについても、育成する資質能力を明確にしたうえで、少し難しい課題や条件を設定し、事前学習の段階から仕組んでいくことの大切さを理解できたようでした。

また、当研修は、県内の全教育事務所管内の学校から参加の申し込みがありました。研修を通して普段は交流の少ない他の地域の先生方とのいい交流の機会になったとの声が聞かれました。初めて会った人とも交流がしやすく、仲良くなりやすいのも体験活動のよさだと改めて感じました。

平素から体験活動の大切さを伝えている青年の家だからこそ、今後もこのような体験活動を通した学校の教育活動支援を図っていきたいと思います。